誌上行学講習会

高佐日煌上人

人間心の菩薩心。これは愛他心であります。つまり他人を愛することで、今道を歩いているとして眼の前で子供がころんだ。この時大部分の人達はかけ寄って子供を起してやります。これでありますが、又人が自殺をしようとすれば必ず「待ちたまえ、やめたまえ」と抱きかかえてとめる。同情心を持つ。困っている人を見ると自分の持っているものを分けてやりたい。これらの愛他心を菩薩心というのであります。

人間心の仏陀心。これは良心のことであります。良心とは生まれつきの心という風に考えがちですが、実はそうではないのであります。生まれてから後しつけられ、色々と教えられて、こういうことはしてはならぬ。こういうことは是非やれというこんだんすかから良心の内容の一人を養うのであります。良心が生まれつきの一人違うのであれば個々バラバラになる筈はないのであります。教育によって変るとは、いう筈はないのであります。大むね良心とは、自分こと直接利害感じる社会に対して果すべき義務。例えば白木屋というのは気持を言うのであります。白木屋の為にはつくさねばならぬのであります。

そして日本の人は日本国を愛し、愛国心のない人は日本の人であります。日本人が広がって行きますと、愛国心が良心であることを忘れて、公的良心、世界的良心、宇宙的良心、私的良心、社会的良心、家庭的良心、町内的良心、国家的良心、国際的良心、人類的良心、動物的良心、植物的良心、鉱物的良心、地球的良心、太陽系的良心、銀河系的良心、宇宙的良心、理想的良心、要するに良心とは、人間的心の動きを考えてみたわけであります。

以上人間的心の動きを考えてみたわけであります。次いであまり良からぬ心について考えてみたいと思うのであります。

極悪犯という恐ろしい人達六名と会談したことがあります。刑務所に入るようなことがあるかと思いやなこわい顔をしているだけで、死刑囚から無期になるまでの間、人間的心の動きを考えてみたいと思うのであります。

私はこうした極悪犯人達の顔を見ますと、「あなた方は悪事を働き、自分のやったことを反省をしているか。」と質問をくりかえしました。

「悪のこと皆答えてくれました。「こっちは悪いことをしたと思っています。」と答えました。

「悪のことを考えると、皆共通して、自分の心に対する反省をしていないようなことを言います。」

以下次号